

リサイクル繊維の表示方法 の検討状況

2023年3月14日
日本化学繊維協会

繊維産業が重点的に取り組むべき技術開発



サステナビリティに対応する繊維技術

繊維to繊維リサイクル技術の実用化

- リサイクル原料等の配合率を客観的に計算

バイオ化繊維の普及

- 主要合繊維のバイオベース化
- バイオ繊維の分析・鑑別法、バイオ原料の配合率等の計算

※繊維技術ロードマップより

環境配慮型繊維製品に関するJIS開発事業 (2022～2023年度)

第1部：リサイクル化学繊維の仕様

リサイクル化学繊維の
適合検証手順のルール化

第2部：バイオマス化学繊維の仕様

バイオマス化学繊維の
適合評価方法のルール化

JIS Q14021:2000 環境ラベル及び宣言－自己宣言による環境主張（ISO 14021:2016）を参考に、自己宣言方式によるJISとする計画

リサイクル繊維の表示に関する注意点



「JIS Q14021:2000 環境ラベル及び宣言－自己宣言による環境主張」より

5. すべての自己宣言による環境主張に適用される要求事項

5.3 あいまい又は特定されない主張

あいまいな又は特定されない環境主張，又は製品が環境に有益若しくは環境に優しいと大まかにほのめかす環境主張をしてはならない。

すなわち，“環境に安全”，“環境に優しい”，“地球に優しい”，“無公害”，“グリーン”，“自然に優しい”，“オゾンに優しい”などの環境主張をしてはならない。

5.5 持続可能性の主張

持続可能性に関する概念は，極めて複雑であり，いまだ研究途上にある。現時点では，持続可能性を計測したり，達成を確認する確実な方法がない。したがって，持続可能であると主張してはならない。

リサイクル繊維の表示に関する注意点

①衣料製品などでの組成表示においては、家庭用品品質表示法で定められた「指定用語」で繊維名を表示する必要がある。



リサイクルポリエステル 100%



ポリエステル（リサイクル） 100%

リサイクル繊維の使用を表示する場合は、法定表示とは切り離して表示する必要がある。

②リサイクル材料の使用について表示する場合は、優良誤認とならないよう、客観的合理的根拠に基づいた表示とする必要がある。



ポリエステル 100%

<取扱い表示記号等>

(ポリエステルの原料に
リサイクル材料を50%使用)

リサイクル材料の含有率の主張においては、リサイクル材料の使用割合を数値（%）で示す必要がある。
また、その数値を客観的合理的根拠に基づいて証明できる必要がある。

「環境配慮型化学繊維

－第1部：リサイクル化学繊維の仕様」の開発方針

JIS開発方針

繊維製品全般において、様々な環境配慮設計（エコデザイン）が求められているが、現状は共通の評価方法・表示方法が無いため、個々の判断基準で説明が行われている。全ての繊維素材、環境配慮項目を一括で整理するシステムの構築は簡単ではないため、まずは原材料にリサイクル材料を用いて製造した環境配慮型化学繊維の仕様（適合条件と適合性評価方法）を規定するJISを作成する。

仕様（適合条件）を設定



適合性評価方法を検討



配合率の計算/表示方法の検討

※化学繊維以外（綿などの天然繊維）についても別途検討が始まっている。

「環境配慮型化学繊維

－第1部：リサイクル化学繊維の仕様」の内容

- ✓ 適用範囲
- ✓ 用語及び定義（ISO/DIS 5157 Textiles — Environmental aspects — Vocabulary
を参考に「リサイクル化学繊維」の定義などを検討）
- ✓ リサイクル化学繊維の仕様（リサイクル化学繊維の種類、リサイクル材料の質量割合）
- ✓ 適合性評価（リサイクルプロセスの分類／プロセス毎の適合性の検証手順）
- ✓ 計算方法（衣料製品等におけるリサイクル化学繊維の混用率／リサイクル材料の配合率）
- ✓ 表示方法

2022年度の検討により、リサイクル化学繊維の仕様（適合条件）を「リサイクル材料の質量割合」とすること、適合性評価におけるリサイクルプロセスを「マテリアルリサイクルプロセス」と「ケミカルリサイクルプロセス」の2つとして、適合性の検証手順の検討に進むことが決定している。

リサイクル繊維の表示方法の検討状況のまとめ

環境主張に関する表示には注意が必要。
(曖昧または特定されない、持続可能性(サステナビリティ)の環境主張は行うべきではない)

リサイクル繊維の定義を明確にし、適合性の検証手順のルール化が必要。

化学繊維分野では、原材料にリサイクル材料を用いて製造したリサイクル化学繊維の仕様（適合条件と適合性評価方法）を規定するJIS開発を実施中。

リサイクル化学繊維の仕様を規定するJISでは、衣料製品等における「リサイクル材料の配合率」の計算方法・表示方法についても含める予定。

日本化学繊維協会 <https://www.jcfa.gr.jp/>

日本化学繊維協会 技術グループ（大阪） 竹内 康晃

Tel : 06-6231-6781 E-mail : takeuchi@jcfa.gr.jp